



新  
インフル  
エンザ  
対  
策

No.22

京都府丹後保健所HPバナー

# 新型インフルエンザ NEWS

～毎月12日(インフル)は、新型インフルエンザを考える日～

編集／発行 (京都府丹後広域振興局)  
新型インフルエンザ対策ワーキング会議

丹後保健所

検索

<事務局>

京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部)

保健室 感染症・難病担当

〒627-8570 京丹後市峰山町丹波 855

TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368

www.pref.kyoto.jp/tango/ho-tango

## もくじ <ワイド版>

- ・備えあれば憂いなし .....①
- ・鳥インフルエンザの人での発症事例 .....①
- ・新型インフルエンザ(A/H1N1)まとめ.....②③
- ・用語解説(リスクコミュニケーション).....④
- ・これからの新型インフルエンザ対策.....④
- ・2009新型インフルエンザを振りかえる.....④

### 備えあれば憂いなし

強毒性の鳥インフルエンザ(H5N1型)と人の季節性インフルエンザA香港型(N3H2型)のウイルスを組み合わせると、より病原性や感染力の高いウイルスが生まれる可能性のあることを東京大学・医学研究所などの国際チームが明らかにしました。

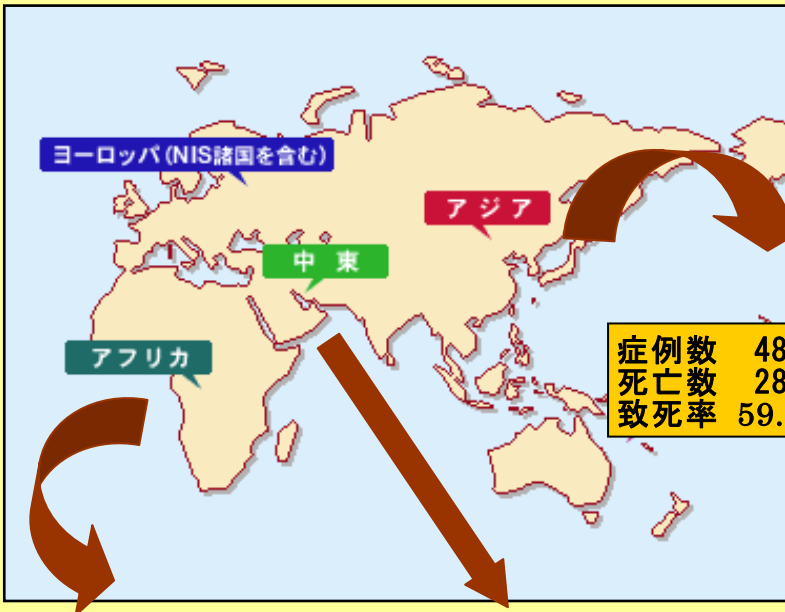
2009年に豚由来の新型インフルエンザ(H1N1型)が発生し、A香港型(N3H2型)の流行は下火になっていますが、H5N1型と今回の新型インフルエンザが混合した場合も同様の現象が起こる可能性があり、研究グループは「新型の登場でH5N1の存在が忘れられているが、監視を続ける必要がある」と指摘しています。

丹後でも、新型インフルエンザの流行が落ち着き、弱毒性ウイルスであることが明らかになるにつれて感染予防の意識は薄くなってきたように思います。しかし、今後も第2波や新しいインフルエンザはいつでも起こりうる状態です。その時に備え、正しい情報を皆さんと共有して、最善の備えが出来ればと思います。

## 鳥インフルエンザ(H5N1) 人での発症事例



### 世界の状況 (2003. 11月～2010. 3. 4)



俺様はどんどん  
変異できるぞ!!



#### アジア

| 国名      | 症例数  | 死亡数  |
|---------|------|------|
| インドネシア  | 163人 | 135人 |
| ベトナム    | 115人 | 58人  |
| 中国      | 38人  | 25人  |
| タイ      | 25人  | 17人  |
| カンボジア   | 9人   | 7人   |
| パキスタン   | 3人   | 1人   |
| ラオス     | 2人   | 2人   |
| バングラデシュ | 1人   | 0人   |
| ミャンマー   | 1人   | 0人   |

鳥インフルエンザ(H5N1)の人での発症事例は、アジア、中東、アフリカ地域等で継続しています。

鳥の中では既にパンデミックと考えられ、いつ変異し、人への感染拡大につながる状況になるかわからず、注意が必要です。

#### アフリカ

| 国名     | 症例数  | 死亡数 |
|--------|------|-----|
| エジプト   | 104人 | 30人 |
| ナイジェリア | 1人   | 1人  |
| ジブチ    | 1人   | 0人  |

#### ヨーロッパ・中東

| 国名       | 症例数 | 死亡数 |
|----------|-----|-----|
| トルコ      | 12人 | 4人  |
| アゼルバイジャン | 8人  | 5人  |
| イラク      | 3人  | 2人  |

<出典>データ:WHO感染症情報センター 2010年3月4日現在

地図: 外務省HP

### 新型インフルエンザNEWS

#### 今後のお知らせ

(平成20年6月より、毎月12日に発行してきましましたが、4月からは随時に情報提供をしていきます)

# Pandemic 2009

## 新型インフルエンザ (A/H1N1)

### まとめ

丹後保健所では、2009年4月に発生した新型インフルエンザ(A/H1N1)に対して、医療機関や市町・関係機関等と共同して対策を進めてきました。  
発熱外来等の医療対応や予防のための啓発、普及、さらにワクチン接種の調整を行いました。

## 1 発生の経過と丹後保健所管内の対応

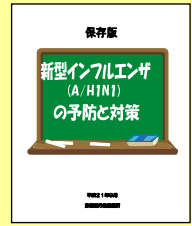
|         |     |  |
|---------|-----|--|
| 平成21年4月 | 24日 | 厚生労働省から都道府県にメキシコ・米国で豚由来の新型インフルエンザ発生の情報提供             |
|         | 28日 | WHO(世界保健機関)が警戒レベルを <b>フェーズ4</b> に引き上げ<br>国や府で対策本部の設置 |
|         | 30日 | WHOが警戒レベルを <b>フェーズ5</b> に引き上げ                        |
| 5月      | 9日  | カナダから帰国した大阪府の高校生ら3人が検疫で初の感染確認                        |
|         | 16日 | 海外渡航歴のない神戸市の高校生の国内初の感染確認                             |
|         | 21日 | 京都府内(京都市)で初めての感染者発生                                  |
| 6月      | 12日 | WHOが警戒レベルを <b>フェーズ6(パンデミック)</b> に引き上げ                |
| 7月      | 24日 | 厚生労働省が患者の全数把握からクラスター(集団発生)把握等へ、サーベイランス体制を変更          |
| 8月      | 1日  | 京都府において発熱患者等の受診を原則全ての医療機関で開始                         |
|         | 13日 | <b>管内で初めてのクラスター(集団)発生</b>                            |
|         | 15日 | 沖縄県の男性が国内初の死亡  |
|         | 21日 | 厚生労働省が「インフルエンザ流行入り」を発表                               |
| 9月      | 2日  | 木津川市の男性が京都府内初の死亡                                     |
|         | 14日 | <b>管内で初めて学校休業の対応(京丹後市内の小学校)</b>                      |
| 10月     | 19日 | 医療従事者他優先接種対象者へのワクチンの接種を以後順次開始                        |
| 11月     | 4日  | 京都府内でインフルエンザ警報基準値「30」を超過<br>丹後保健所管内も警報基準値「30」を超過     |
|         | 19日 | <b>京丹後市の40歳代女性が新型インフルエンザに感染、死亡</b>                   |
| 平成22年1月 | 12日 | 京都府がインフルエンザ警報終息基準値「10」の下回りを公表                        |
|         | 18日 | 優先接種対象者を含む全ての府民を対象にワクチン接種開始                          |

**4月** 発生を受け、新型インフルエンザに係る関係機関会議の開催(5~12月計7回)

**5月~7月**  
症例定義で疑いのある方は、与謝の海病院、弥栄病院、久美浜病院の「発熱外来」で診察



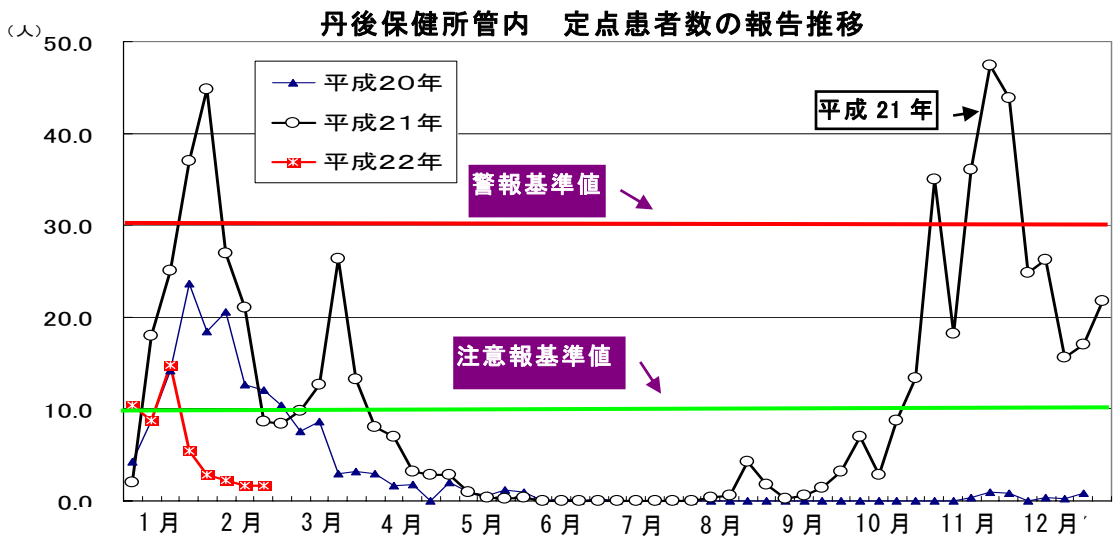
**10月**  
リーフレットを全戸配布  
予防や対応の知識の普及



**10月**  
優先接種対象者から医療機関でワクチンの接種



## 2 管内の流行状況

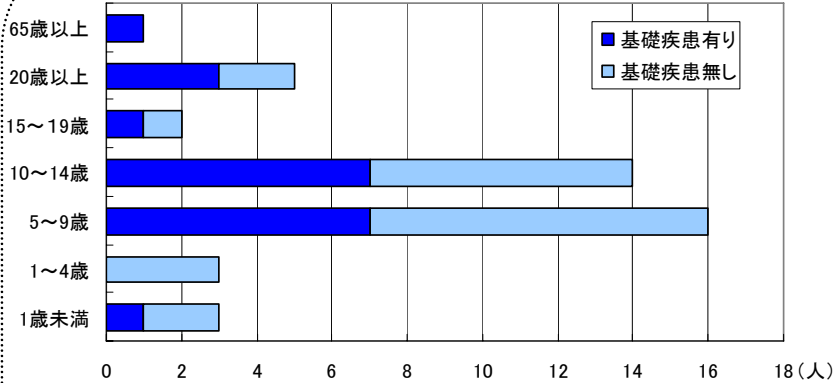


平成21年秋の流行は新型インフルエンザですね!

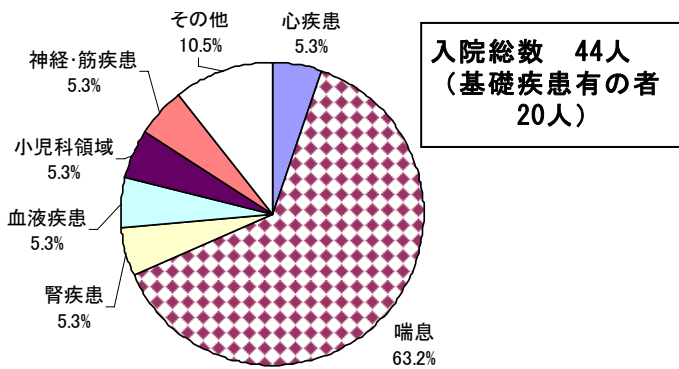


### 3 重症患者の状況（新型インフルエンザによる入院・死亡）

丹後保健所管内の入院患者の年齢構成（8/1～2/28日分）



丹後保健所管内の入院患者基礎疾患の内訳



京都府 新型インフルエンザによる死亡例

| 死亡月 | 年代    | 性別 | 基礎疾患 |
|-----|-------|----|------|
| 9月  | 60歳代  | 男性 | 有    |
| 11月 | 30歳代  | 女性 | 不明   |
| 11月 | 1歳8ヶ月 | 男性 | 無    |
| 11月 | 40歳代  | 女性 | 有    |
| 12月 | 60歳代  | 女性 | 有    |
| 12月 | 10歳未満 | 男性 | 無    |
| 12月 | 70歳代  | 男性 | 有    |
| 12月 | 80歳代  | 男性 | 有    |
| 12月 | 50歳代  | 男性 | 有    |
| 1月  | 20歳代  | 男性 | 無    |
| 1月  | 50歳代  | 女性 | 有    |

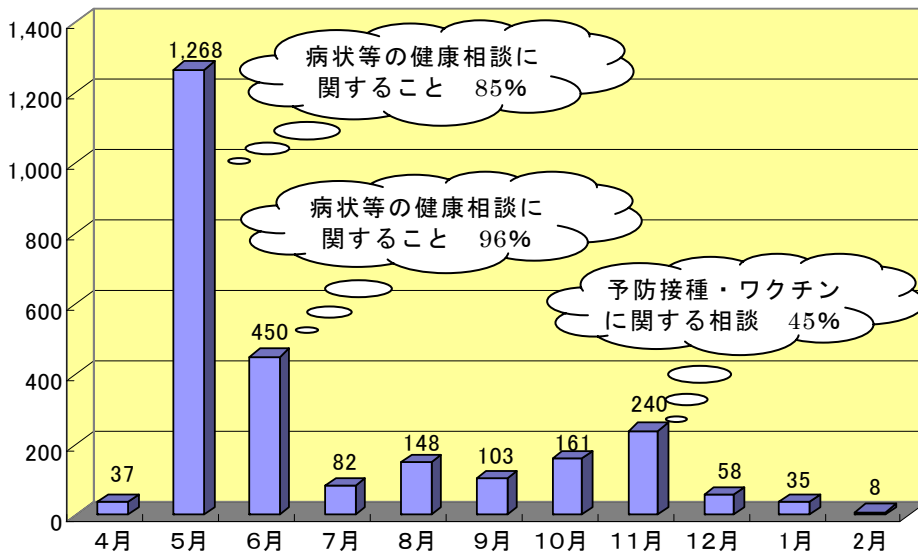
管内の入院患者では、5～9歳の小児が多く(36.3%)、次いで10～14歳が多数でした(31.8%)。また、入院患者に占める基礎疾患有りの方の割合は45.4%でした。

基礎疾患の疾病別内訳では喘息が多く、63.2%を占めました。

京都府の死亡例を見ると基礎疾患を持つ方の割合が63.6%でした。

### 4 相談業務

丹後保健所における相談件数



4月28日に府内の各保健所に「発熱相談センター」が設置され、相談を受け付けました。5月の国内の感染事例の報告を受けると相談は急増し、ピーク時には170件/日を超えました。

保健所職員のみならず、市町の保健師の協力も得て相談に対応しました。

相談内容

【4～7月】

患者の発熱外来紹介

- 発熱しているが、どこを受診すればよいの？
- 新型インフルエンザの症状は？
- 関西へ行ってきたが大丈夫か？

【8～10月】

増加する患者への対応

- 発熱しているが、新型インフルエンザなの？
- 受診や自宅療養の方法は？
- 家族への感染予防は？
- 通学や通勤はいつまで控えるの？

【11～1月】

ワクチン接種対応

- ワクチン接種の対象か？
- 接種可能医療機関や回数、料金は？



(用語解説)

# リスクコミュニケーション

リスクは「危険・危機」を意味し、リスクコミュニケーション (Risk Communication) とは、社会を取り巻くリスクに関する情報を、行政・企業・住民などの関係間で共有し、相互に情報伝達を行って意思疎通を図ることを言います。

自然災害などでは、行政の危機管理能力には一定の限界があり、市民の協力を得ることによって被害の最小化が図れます。そこで、地域の安全において、行政、専門家、企業、住民などがリスクについて情報や意見を交換し、共有し合うリスクコミュニケーションが不可欠とされています。

出典:Wikipedia



## 新型インフルエンザのリスクコミュニケーション

住民の方はもとより、医療機関、学校、事業所、施設等の関係機関がそれぞれの役割を認識し、協力していただくことによって地域の被害の最小化が図れます。

目に見えないウイルスのため、その被害や危険はなかなかイメージしにくいものですが、正確な知識や情報、地域の現状を、関係者間で共有していく必要があります。

## これからの新型インフルエンザ対策

### ひとりひとりが今後も続けましょう



**感染予防の基本**  
こまめな手洗い・うがいを



感染をひろげないために  
**咳エチケット**を守りましょう



かかったら無理をせず  
**外出自粛**をして自宅療養を

### 企業・施設における感染拡大予防のために

- 事業継続計画 (BCP) を作成しておきましょう。
- 施設内での感染拡大防止のため、定期的な手洗い等の研修を実施しましょう。
- 業務に必要なマスクや消毒薬などを備蓄しておきましょう。

### 基礎疾患のある方はワクチン接種をうけましょう

今季の季節性ワクチンはAソ連型、A香港型、B型の3タイプのウイルス株を用いて作られていましたが、世界的にAソ連型の発生が0に近いこともあり、WHOはAソ連型の代わりに新型を入れることを推奨しました。これを受けて、日本でも来季ワクチンは新型、A香港型、B型のワクチンとなり、1種類の接種ですむことになります。

パンデミック (世界的大流行) となったインフルエンザ

| 1920          | 1930 | 1940~        | 1960 | 1970         | 1980 | 1990         | 2000 | 2009 |
|---------------|------|--------------|------|--------------|------|--------------|------|------|
| H1N1          |      | H1N1 Aソ連型    |      | H1N1 Aソ連型    |      | H1N1 Aソ連型    |      | ?    |
| ↑スペインかぜ(1918) |      | ↑ソ連かぜ(1977)  |      | ↑ソ連かぜ(1977)  |      | ↑ソ連かぜ(1977)  |      | ?    |
|               |      | H2N2         |      | H2N2         |      | H2N2         |      |      |
|               |      | ↑アジアかぜ(1957) |      | ↑アジアかぜ(1957) |      | ↑アジアかぜ(1957) |      |      |
|               |      | H3N2         |      | H3N2         |      | H3N2         |      | ?    |
|               |      | ↑香港かぜ(1968)  |      | ↑香港かぜ(1968)  |      | ↑香港かぜ(1968)  |      | ?    |

過去のパンデミックでは、新型ウイルスの流行で、それまで流行していたウイルスが世界的に姿を消しています。

## 2009新型インフルエンザ(A/H1N1)を振りかえる

京都府丹後保健所長 田中稔之

昨年発生した新型インフルエンザ感染の第一波は、ほぼ収束してきました。丹後地域の府民の皆様御協力をもって、新型インフルエンザ対策が行われたことに、感謝申し上げます。

世界中に蔓延した新型インフルエンザではありませんでしたが、丹後地域では、全ての行政機関、公的機関、診療所と病院、福祉・介護施設、教育機関、民間事業所等、それぞれの皆様の御尽力により、そしてなにより、府民の皆様一人一人の御理解と御協力、積極的な保健活動の実施によって、大変な一年間を乗り越えることができました。

ふり返りますと、昨年4月の発生が確認されてから、蔓延国から帰国された方の潜伏期間内の健康調査、患者と接触された方へのタミフル予防投与、就学就業自粛、「うつらない、うつさない」ための手洗いやうがいの実行、咳エチケットの遵守、発熱外来や相談センターの活用、これらの保健活動を、府民の皆様が確実に実施していただきました。そのおかげで、8月に発生が認められるまで、約3ヶ月間も丹後管内での発生を予防することができました。そして、その時間的経過の中で、比較的弱毒性であることや感染力等、少しずつ新型インフルエンザの正体がわかってきました。

また、診療所や病院では院内感染予防対策が実施され、10月からはワクチン接種が開始されました。

さて、保健活動は、お一人お一人が、「自覚」「実行」「継続」していただいで効果のあがるものです。今回の新型インフルエンザ対策を通して、保健活動の主役はまさに府民の皆様方であることを改めて実感しました。今後とも府民の皆様方と一緒に、保健所は努力していきたいと思っておりますので、引き続き御理解、御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。